

2021年11月14日

## 自主研修 里山づくり検討会

行橋市下稗田で国、県の補助金を利用して活動しているボランティア団体「里山復帰」の現地で当会の自主研修を行った。ボランティアのメンバーは現役・退職者を問わず多岐にわたる職種の方々が参加されており、作業道、トイレ、水道、電気施設等インフラ整備も素晴らしく整備されていた。今回の自主研修の目的は「里山復帰」の活動を通じ、森林インストラクターとして備えておくべき、①森林づくりの考え方と②活動に欠かせないチェーンソーの取り扱い方を学ぶことである。

最初、有松責任者より「里山復帰」の現状と今後の計画につき説明を受けた(下図)。2019年から放置竹林の整備を始め、続いて放置雑木林の除伐を進めて、こもればのさす健康な森林づくり、作業道・散策路の整備、目的とする里山のゾーニング化、例えば、将来の植物群落の再生、アスレチック体験の森づくり、キノコ・果樹・タケノコ栽培の森づくりなどで、2022年以降は各ゾーンの有効活用を実施していく方針であるとの説明を受け、続いて現地見学を行った。



現地見学の前に、手寫理事より、森林づくりに関し、下記の点に留意すべきであるとの説明を受けた。

- ① 森林全体の植生調査(抽出)
- ② 希少動植物の調査
- ③ 特徴的な植物群落の調査
- ④ 残すべき植物が整備活動の際、消滅しないようマーキングが必須
- ⑤ 森づくりの目的に合ったモニタリング方法の選択

これらの点を他の会員と打合せながら森林整備を進めたとのこと。実際、散策路を歩きながら希少なコ克蘭、アリドオシ、シャシヤンボ、センリョウなどの植物や、ゾーン化されたヤマザクラ、ヤブツバキ、リョウブ、アオツヅラフジ、スダジイーミズバイの群落を確認した。

次にチェーンソーの座学と実践の指導を有松責任者と有松育雄氏より受けた。座学では刃の手入れ、安全作業に係る服装について学んだ。特に、刃の手入れは安全に伐木をしていく上で重要であり、刃の手入れ状況でその人の力量が判るとのことでした。

現場では胸高直径約30cmのタブノキの伐木の実演があった。教科書に記載されている受け口、追い口などを実演しながら丁寧な説明を受けた。特に、広葉樹は針葉樹と枝の張り具合が異なり、重心が傾いているので特に注意を要するとの話も受けた。その後、インストラクター会員による玉切りの実習があり、チェーンソーの刃の入れ方、腰の姿勢、安全対策など、手取り足取り細かな指導を受け、今回の研修を終了した。



(研修会出席者:手寫、諸石、大森、千田、金子、大熊、中村<sub>ひ</sub>、中村<sub>美</sub>)